



『登殿参列』始まる

全教会長を対象とする「登殿参列」が、6月の本部月次祭から始まったが、岡大教会の割当ては7月の本部月次祭から始まり、第一陣13名が参列した。これは、教祖百三十年祭へ向かう三年千日のさなかにあつて、全教会長が、それぞれの教会の代表としての心定めとともに、日ごろのおたすけ活動の経過を親神・教祖にご報告申し上げ、さらなる決意を固め直すうえから行われるもの。期間は、来年12月の月次祭までとなっている。(春季・秋季大祭を除く)



前日の夕刻、詰所に集合した参列者は、揃つて本部神殿を参拝。その後、詰所修養棟遙拝場へ場所を移し、まず安井一夫・大教会役員による「登殿に対する心構え」についてお話があつた。安井役員は「登殿参列には、大きな親心をおかけいただいている。しっかりと喜ばせていただくことが大切。そして、親神様のご守護の源であるかぐらづとめ

を間近に参拝させていただくことで教会長のありがたさを十分かみしめ、その親心にお応えできるよう、明日を吉祥にさらなる力強い歩みを進めていただきたい」と呼びかけた。

続いて、大教会長様のあいさつでは、「教祖百三十年祭に向う今回の登殿参列は、年祭を迎えるより先に登殿が行われる。これは、『おちばに帰つておいで』と親の方から呼んでいただいているのであつて、おちばへの招集である。おちばに帰ることは、お道の通り方の基本である。ちば一点の信仰とは、どういう親心を頂いているかと求めながら歩ませていただくこと。元に戻つて自分の信仰を確認し、それが強い信仰信念となるように、おちばの思いを素直にしつかりと受け取つてお帰りにいただきたい。そして、この年祭活動三年千日を、さらに勇んでお通りいただきたい」と話された。その後、大教会長様、奥様より懇親会として招宴が行われた。

翌26日午前7時、参列する教会長はおつとめ着に身を包み、詰所玄関前にて大教会長様と共に記念撮影。その後、詰所を出発し、午前7時45分より登殿の受付。誘導をいただいて、神殿の境界内に参進して着座した。



7月26日登殿参列教会 相嘉、大和二見、新上、岡館、東松浦、大博、銀杏城、須光、筑八、貞元、大空、今光、南淵 計13教会

こどもおちばがえり初日とあつて、参拝者でいっぱい殿内。かぐら・てをどりが終わり、神殿講話のち、参列者は真柱様、つとめ人衆、直属教会長らに続いて教祖殿御用場へ参進し、山澤廣昭内統領の手に合わせて、教祖、祖霊様に礼拝した。続いて、内統領よりあいさつがあり、「教会長自らが手本を示しつつ、ようばくの中のようによくとして、たすけ一条のうえにおつとめいただきたい」と呼びかけられた。

参列者はあらためて、教祖年祭に向かって力強く歩みを進めることを教祖に誓った。

今後の登殿参列の予定

登殿月	教会	
9月26日	飛鳥川、北松浦、福門、松ヶ江、牛津、芦刈、松浦郷、住之都、東松浦大阪、筑後川、武生水、早岐、西肥、肥里、肥保、北有明	計16教会
立教177年		
2月26日	忍海、枚方、岡道、外江、杵島、上橘、白石町、香蘭、北佐賀、明祐、江北野、西北、呉服町、薬院、筑攝	計15教会
4月26日	道弘、道明弘、南阿太、芦住、東福德、東明実、ホープ、西大阪、西壽、紫王路	計10教会
5月26日	表野、表田、眞澄、明澄、界澄、高田、肥東、嘉殿、東志免、東水町、東鹿島、鶴城、鳥飼、警固、西新	計15教会
8月26日	岡萩、岡垣、岡瀧、瀧登、岡村、肥城、肥前三日月、肥道、勇虎、伊萬里、西乃島、肥陽、肥大	計15教会
12月26日	眞世、博澄	計2教会

共に学び合う『成人講座』

6月から3つのテーマを掲げてスタートした「岡ようばく成人講座」は、8月23日までに17ヶ所の教会が開催した。

8月16日、貞元分教会(古賀文博会長)は、月次祭の祭典後に引き続き、「おつとめをまなぼう」をテーマに開催。参拝者21名が受講した。

当日、講師をつとめた古川道則・鳥飼分教会長は、教祖の教えをもとにおつとめの大切さを説明。そのうえで、おつとめに込められるをやの思いを伝え、実際に鳴物(打ち物)の構え方や打ち方など、基本作法の練習を行った。

講師をつとめた古川会長は「『講座を通して、教えいただく姿勢に近付けるよう』との大教会の親心を胸に、つとめさせていただいた。そして、事前研修で学んだ『おつとめとは何か』や『基本的な心構えや姿勢』を探り、それを基におてふりや鳴物の練習をさせていただいた。」と振り返る。

また、「長く信仰されている信者さんが多く、長年の間に少しずつ自然と癖がついておられるようにも思う。しかし、この機会に鳴り物の基本を学び直すことによつ



写真は、表野会場。「おつとめを学ぼう」をテーマに開催した講師の説明に、受講者は熱心に受講。特に、おつとめのリズムや、調子を合わせることの大切さについて学んだ。(7月2日・表野分教会で)

て、おつとめについて再認識していただけたと思う。また、鋭い質問などを受けることで、私自身もあらためて勉強させていただいた。講座の最後には、リズムを合わせる練習として、全員で交代しながら鳴り物練習をさせていただき、和やかに講座をつとめさせていただくことができた」と、感想を寄せた。